

中核地域生活支援センターいちほら福祉ネット

中核地域生活支援センターは、24時間365日体制で福祉の総合相談・権利擁護・地域づくりの活動をする千葉県独自の事業です。県内には保健所の圏域ごとに13ヶ所のセンターがあり、ききょう会は平成18年から市原圏域の委託を受け、「いちほら福祉ネット」を開設し10年目に突入いたしました。

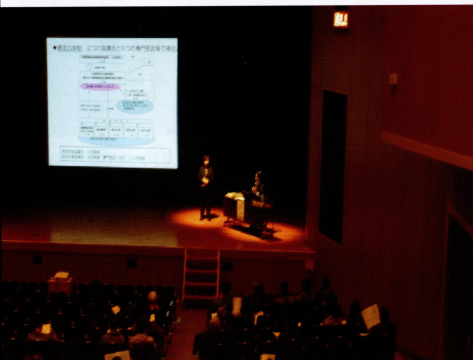
対象は障害の有無や年齢に関係なく、福祉領域を中心としたさまざまな生活上のお困りごとについて、ご相談をお受けしています。

中核センターの特徴をご紹介します。1つめは、相談対応はこちらから出向いたり(アウトリーチといいますが)、ご本人だけでは難しい手続きに同行したり、手助けが必要な場面には直接支援も行いながら、具体的に問題解決していくプロセスをご本人達と共に行なうという点です。2つめは、個別の相談対応だけで終わらせず、そこから見えてくる課題を関係機関などに発信・共有し、地域全体で考えていけるよう働きかけていく点です。

9年間で対応した件数は延べ6万件を超え、また、地域の様々な会議やイベント等を通じて強力なネットワークを作っています。1つ1つのお困りごとに向き合い、関係する様々な立場の人たちと一緒に知恵を絞り、汗を流すことが、地域を良くしていくためにはとても大事なことだと感じています。



千葉県障害者グループホーム等支援事業



第6回千葉県障害者グループホーム大会開催!
午前中は、『第五次千葉県障害者計画の策定について』と題し千葉県健康福祉部障害福祉課 古屋課長より計画の概要と進捗状況について説明いただきました。「入所施設からの地域移行」「グループホームの整備促進と質的向上」と合わせて『新規開設支援』『グループホームの質的向上』に向けて更なる障害者グループホーム等支援ワーカーの役割が求められていると講演がありました。午後からは、会場を4つに分け分科会を開催しました。障害者グループホーム等支援ワーカーの実践発表や強度行動障害や重複障害がある方を受け入れているグループ

ホームからの支援報告、児童施設や精神科病院からの地域移行支援の報告、障害者の親として何ができるのか?を本音で語り合える場をそれぞれ設け活発な議論が展開されました。中には、会場に入りきることが出来ず急きょ席を増設する会場も見られ、盛況の中で終えることが出来ました。今後も障害者の生活が豊かになるような企画を考えていきたいと思っています。

編集後記

新園舎が徐々に姿を現し利用者様、職員一同、完成を待ち遠しく感じているなか、季節は「春」を迎え仮設生活も残り僅かとなりました。これからは新園舎に夢を膨らませながら、利用者様の笑顔の為に、職員一丸となって頑張りたいと思います。

ききょう タイムズ TIMES



発行：社会福祉法人ききょう会 編集：吉沢学園編集部
〒290-0523 千葉県市原市吉沢117番地 TEL.0436-98-1562 FAX.0436-98-1398

No. 63 平成27年5月1日発行

シリーズ 新園舎への道 part3

祝！竣工



吉沢学園の新園舎がついに出来上がりましたいかがでしょうか?外観のモダンさに地域の方々も「シャレてるね〜」と笑顔で声をかけてくれます。

約1年間仮設での生活をしてきましたが利用者の皆さんには、食事やお風呂でご不便をおかけしました。

また、待望の全室個室になりましたが、部屋数が多くてすぐには誰がどこにいるのか把握するのに職員はてんでこ舞い!早く新生活に慣れて今まで以上に楽しい暮らしを満喫できるよう利用者さんと職員で作っていきたいと思っています。

設計を下された(株)INA新建築研究所の皆さん、工事を請け負って下さった松井建設(株)の皆さんありがとうございました。



園舎西側外観

細部まで行き届いた監理、丁寧な施工のおかげでとても使いやすく快適な生活ができそうです。

また、ご指導いただきました千葉県障害福祉課の担当職員の皆様、ご協力いただきました保護者の皆様、そして関係していただきましたすべての方々にこの場をお借りいたしまして感謝申し上げます。